

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600158		
法人名	社会福祉法人 福祉の里		
事業所名	ふるさと十和田		
所在地	〒034-0061 青森県十和田市切田字横道100-22		
自己評価作成日	平成28年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設事業所の敷地内にあり周囲には民家が少ない農村地帯であるが、季節の移り変わりを目や肌で直接感じられるような環境にある。施設内の空間はゆったりとしており、利用者の行動にも目が届きやすいようになっている。利用者個々の持っている能力を活かし自立した生活を目指している。隣近所が遠いが、学校行事に参加させてもらい子供たちと交流している。日中の大半を利用者と職員がホールで過ごし、ゆったりとした感じで生活できているところが特長である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

田園に囲まれた自然豊かな環境に立地し、リビングの大きな窓からは田畑の景色を眺めることが出来る。敷地内に桜の木やバラの花を植えており、花が咲く時期には花見を気軽に楽しむことができる。中庭には藤の花や池があり、日常の散歩コースとして活用している。ホールは天井が高く広々としており、採光もよくゆったりと過ごすことができる。老人保健施設と併設となっており、行事や利用者同士の交流、災害時等の備蓄品の管理や避難誘導での協力体制が得られる。利用者の健康状態や献立について、同法人事業所の看護師や栄養士に相談することができる。同法人の夏祭りや文化祭などの行事には地域住民も多数参加し、利用者との交流の機会となっている。また、小学校との交流が盛んで、毎年、児童が事業所を訪ねたり利用者が招待を受けて小学校を訪問し交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールに掲示し周知を図っている。その理念に基づき事業計画を立案し実践につなげている。	法人の理念と事業所の理念、法人の年度目標をホールに掲げ、常に意識している。また、新職員の研修内容にも取り入れ、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校への行事参加。中高生の職場実習やボランティアの受け入れを行っている。	近隣の小学校の運動会、学習発表会の際は学校へ利用者が招待される他、併設の老人保健施設に訪れる中学生の職場体験等を通して、交流を図っている。夏祭りや文化祭りには地域住民も多数参加しており、秋祭りには地域の山車が事業所を訪問し、皆で見物している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で当施設の取組みを報告している。認知症がある利用者への対応などについて助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の実施。当施設での取り組みから感じる事を率直に評価してもらい、取り組んでいる。	会議には地域包括支援センターの職員や町内会長、民生委員等の参加を得ている。外部評価の結果報告や、日頃のレクリエーションや日中状況の報告などを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで報告し、助言を頂いている。今年度は徘徊訓練にも参加し情報共有も計れた。	市役所で各地域ごとに開催している徘徊者の対応訓練に参加し、地域のニーズの把握に努めている。若年性認知症や精神疾患等の困難ケースは地域包括支援センターに相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修を行っている。狭い人間関係に陥りやすい為、言葉のかけ方には気を使うようにしている。玄関については、入居者様が出たい時はすぐに出られるよう対応している。昨今物騒な事件が続いていたため施錠はしている。	併設の老人保健施設で全体研修を行っており、参加している。職員同士でも不適切な対応がないか声を掛けあっている。スタッフルームには「禁句集」を掲示し、スピーチロックに陥らないよう啓発している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修を行っている。内服の関係で内出血しやすい入居者様もいるので、身体の観察は徹底して行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修を行っている。今のところ活用している方はいないが必要に応じて活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行って、家族、入居者の不安を軽減できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会の場などで意見を出してもらっている。要望があった場合は出来るだけ速やかに対応できるよう努力している。	年1回、法人として利用者・家族に満足度調査を実施し、客観的な意見収集と分析を行っている。出された意見に対しては改善に向けての会議を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の運営会議、週1回十和田地区会議に参加し意見や提案を聞いている。職員間の意見や提案は申し送りファイルを使用し共有している。また、日常の申し送り時にも意見を聞き業務に反映させている。	業務改善提案シートを活用し、職員が自由に記載した意見等を改善に向けて全体で話し合っている。法人の各部門の代表者が集う会議では、各部門からの意見を理事長へ報告している。理事長自ら事業所に足を運び、職員とも気軽に意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行っている。考課用紙には意見を自由に書いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量判定チェックを行い、スタッフ個々に目標設定している。福祉の里での研修参加もできるだけ出すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はなかなかできていないが、併設のみのり苑の認知症専門棟職員との交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、安心感を持ってもらうよう努力している。サービス利用を開始した当初は不安を軽減できるよう寄り添う時間を多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を行い、要望を聞いている。また、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入居を希望されているケースが多い為、そこでの必要な支援を中心に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々に出来る事を行ってもらい、役割をもって、いきいき生活できるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の場を利用し、家族さんならではの役割を果たしてもらっている。利用者さんと家族が直接触れ合えたり、協力して作品を作る機会を設け、絆を深める事ができるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との交流が中心になっているがみのり苑での行事に参加し馴染みの人に会える機会を設けている。	地域の神社の参拝や祭りの見学等、昔から馴染んでいる行事等に外出している。併設のデイケアセンターを利用していただく方も多く、夏祭りや文化祭に参加することで馴染みの利用者とは交流している。家族の協力を得ながら、正月や盆に帰宅することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室で過ごす人は少なく、ホールにあるソファでくつろぎ仲よく話をしている。また、体操やレクを行い関わりを持つ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では退居するとみのり苑に入所する事が多い。みのり苑の相談室が中心となるため、そちらへ情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを大切にし良好な人間関係を築くことにより、利用者の思いを聞き出せるよう努力している。	隣に座ったり一緒に散歩したりといった日常の会話の中から、本人が望んでいるものを把握するよう努めている。その内容を家族と共有することで、新たな情報が得られることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月モニタリングを行いプランを評価している。毎日の申し送りで、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの開催、また、家族交流会、面会時など話をする機会をもち、入居者の皆様がより良く暮らせるよう計画作成している。	家族から予め要望等を聞き取りし、プランの見直しに合わせ、6ヶ月に1回カンファレンスを開催している。主治医や契約している訪問看護、併設事業所の栄養士等にも相談することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はカルテに記録。気づきや工夫は申し送りファイルを活用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけニーズに対応できるよう努力しているが多様化までは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り見学や小学校の行事参加などを通して楽しく生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に定期的を受診している。また、家族とも必要に応じて病院の相談を行っている。	かかりつけ医の受診時は主に事業所に対応し、日常の様子を直接報告している。法人の常勤医には緊急時の判断等の指示を仰いでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時情報共有している。また、隣のみどり苑に訪看がいるため、適宜報告相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診を行い、かかりつけ医と情報交換をしている。また、入居者が入院で不安な時は面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては家族さんとも話す機会をもつようにしている。事業所で出来る事は限られているので家族さんも、悔いのないようにできるよう助言している。	状態が思わしくないときには随時家族と面談して状況を伝え、意向の把握に努めている。状況により法人内の他事業所を紹介したり、訪問看護を利用するなど、それぞれの状況、状態にあった支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化されている。また、救急搬送した時は、皆で情報供している。次の機会に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、慌てず行えるようにしている。また、みどり苑とも協力体制を築いている。	食料や自家発電機等の災害時の備蓄は法人で一括して管理している他、併設の老人保健施設とはスロープでつながっている為、避難もスムーズに行っている。地域の消防団との協力体制もある。避難訓練は昼夜想定でそれぞれ行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い人間関係なので馴れ馴れしい感じになることもある。人格を損ねていないかスタッフ同士で声をかけあうようにしている。また、スピーチロックになっていないか注意するよう促している。	親しみやすさと馴れ馴れしさを混同しないよう、常に気を付けている。法人でテレビCMを放映しているが、撮影、放映にあたっては家族から許可が得られた方の映像のみ使用している。台帳等は外部から目につかないようスタッフルームで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しいことなど意思決定することは少ないが、何が飲みたい等選んでもらうような工夫はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ過ぎてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の服のこのみを聞いたりして対応している。また、家族さんにも服を用意してもらうなどお願いする事も有る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は好き嫌いを聞いたり、食べたいものを聞いたりしている。食事の準備や盛り付けなど入居者様が出来る場所はしてもらっている。	箸や湯飲みは一人ひとり好みのものを使用している。畑で収穫した野菜や差し入れの果物を献立に組み入れている。また、食材を切ったり皮をむいたり、茶碗ふきやコーヒーを入れてもらうなど、出来ることを無理のない範囲で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食後カルテに記載し把握している。食欲がない方は受診時医者と相談しカロリー摂取できる飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個別に歯磨きや入れ歯洗い、うがいを徹底して行っている。また、入れ歯が合わなかったりする場合は家族と相談して歯科往診をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ひとりひとりの習慣を把握するようにしている。全員、トイレでの排泄を行っている。	リハビリパンツと尿取りパッドを使用し、トイレでの排泄ケアを行っている。個人ごとのタイミングを把握し、適宜声掛けをして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をまめに行い便秘予防に努めている。また、メニューも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は1対1での対応。主に入浴は午後になるが本人に入りたいか確認して行っている。また、入浴間隔があき過ぎていないかチェック表も作成している。	女性の同性介助は希望通り対応している。週に2～3回入浴できるようチェック表を活用している。入浴できない場合には足浴や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、ソファなどで自由に休めるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬のボックスを設けている。薬の情報はスタッフで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や農作業のアドバイス。歌が好きな入居者様には歌の披露など活躍できる場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへはなかなか行けないが、中庭やみのり苑への散歩は積極的に行っている。今年度は散歩に力をいれ、入居者様の体力維持、気分転換を図った。	中庭にある藤や池の鯉を愛でに積極的に散歩に出かけている。外を歩くことで気分転換ができ、昔の話や普段は聞かれない様な話を聞き出すことができている。ドライブやお花見などは法人の車両を使用しいつでも出かけることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を管理している入居者様はいないが、買い物など一緒に行き使う楽しみをもっていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望に応じ電話などはしている。携帯電話を利用される入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールなどには季節の花を飾ったりしている。また、中庭からは外が見え、天気の良い日は散歩もできる。浴室は個浴が出来、トイレは手すりも整備され、入居者の皆様に居心地良く生活できるよう配慮している。	ホールは採光よく、大きな窓からはバラや桜、田園風景が眺められる。ソファや椅子などを複数配置し、それぞれの好みの場所で日中過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席や、ソファなど一人一人が自由に休めるところを用意している。そのためか、隣同士になった入居様が楽しそうに話していることも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具を持ちこむ人はいないが、使い慣れたポータブルトイレを持参して頂き安心して排泄できるようにしている。	居室にはキャビネットや電動ベッドが備付られている。また、家族の写真などを飾ったりタオルケットは使い慣れた本人のものを使用している。テレビ等の持ち込みも制限なくできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いホールを十分に活かし、活動しやすいように環境を整えている。歩行器の方でも安全に移動できるようテーブルの並びを工夫している。		